



『ソ連とロシアの蛮行』

三 渡 圭 介 会 員

1 ロシアのウクライナ侵攻による蛮行

1) 背景

① ロシアとウクライナは近世では同じ国であった。

ウクライナは中世においては陸続きの為にポーランドや、オーストリア・ハンガリー帝国の領土の時代もあり、近世においてはロシア帝国の領地でありました。1917年レーニン達によってロシア革命が起こり、ロシア帝国が滅び1922年にソビエト社会主義共和国連邦が誕生し、社会主義の国となります。ロシア帝国時代にシベリアにおける不凍港を目指した南下政策により、日清戦争後、大陸進出を図る日本との衝突にて1904（明治37年）から1905年にかけて日露戦争で戦います。この時にもウクライナの兵士はコサック騎兵として参加をしております。ロシア帝国が滅び1922年にソ連になってもウクライナ共和国としてベラルーシ、バルト三国のリトアニア、ラトビア、エストニア、カザフスタンなど15の共和国と一緒に一員となっております。

② 第二次世界大戦

ドイツにおいてヒトラー率いるナチスが近隣諸国に侵攻をして行き、多くの国を戦争に巻き込みます。特に被害が大きく復興に向けてソ連が手を差し伸べた近隣の諸国にポーランド、チェコスロバキヤ、ハンガリー、ブルガリヤ、ルーマニヤ、アルバニア、ユーゴスラビヤ、そして大戦後の分割で得た東ドイツを入れてソ連の衛星国化をし、東欧諸国を形成しており、アメリカを中心にしたNATOと対立をし、東西冷戦を形作っております。

③ ベルリンの壁の崩壊

大戦後、アメリカ、イギリス、フランスなどの西側諸国に対して東欧諸国として対立が続いておりましたが、1989年11月9日に西と東の分断の象徴であったベルリンの壁が崩壊し、分断されていたシンボルのドイツが一つになり、ソ連の衛星国化していた東欧諸国が1993年に発足していたEUに段階的に参加をして行きます。

④ ゴルバチョフのペレストロイカ（再構築）

ベルリンの壁崩壊により東欧諸国の社会主義形成が揺るぎ始め、西側諸国のEUにソ連の一部であった15の共和国にもその影響が表れ、ソ連離れが始まります。そのような情勢によって1991年当時の大統領ゴルバチョフがペレストロイカ（再構築）で引き締めを図りましたが、西側への流れを止められず、約70年続いたソビエト連邦を崩壊して、参加していた15の共和国をソ連から外し、それぞれ独立国として発足しましたが西側経済圏EUに対抗してロシア経済圏であるCISに加盟を強制しております。

2) ロシアの蛮行

この様な背景からウクライナのEUとNATO加盟要望に関して、ロシア離れに業を

煮やしたプーチンが2022年2月にウクライナに侵攻をし、現在に至っております。

その蛮行は我が国においても毎日報道で知るところであります。軍隊対象のみならず民間人に至るまでの略奪、暴行、に及び強制連行も行い、思想教育等を施し過去のソビエト連邦の栄光を目標としているように我々には映ります。

2 ソ連の蛮行

① 満州

第二次大戦においてソ連は連合国に属し、日本はドイツ、イタリア、と三国同盟を結び枢軸国としてお互いに戦っておりましたが、ソ連と日本には中立協定条約を結び、不可侵条約としてドイツからのソ連の軍事勢力を半減する為に再三の極東からソ連を攻めてくれとの要請に耳を貸さず、その約束を守っておりました。ところが、日本がアメリカ軍の空襲を受け、日本全土は崩壊寸前のところへ広島に原爆を落とされ、瀕死の重傷になっていた終戦間際の8月8日に、何の通達もなく一方的に不可侵条約を破り満州に雪崩れ込んで来ました。

当時の満州は関東軍の精鋭は南方に派遣されて手薄で戦える状況でない上に、民間人である多くの開拓民が広い満州国に散らばっておりました。又、政府の役人とその家族並びに満州鉄道の様々な事業に関わっていた人とその家族総勢150万人ともいえる日本人が多くは略奪、強姦そして老人と女子供だけの開拓団では集団自決を余儀なくされ、日本に向けて逃避行を続ける中に子供を抱えた女性が生きるために中国人との結婚、満州残留孤児などの多くの悲惨なドラマが発生しておりました。それは五味川純平氏の「人間の条件」や藤原てい氏の「流れる星は生きている」宮尾登美子氏の「朱夏」などの作品に表れている。

又軍人を中心にして民間人の男性も含め8月15日の終戦の後18日に武装解除の命令を受け、丸腰にて捕虜となり、貨車に積まれ北進し、シベリアに抑留されました。その数は樺太千島も含めて60万人とも70万人ともいわれその内7万人が栄養失調と寒さに耐えきれず、日本の土を踏むことなく、息を引き取ったと云われます。

② 樺太・千島列島

樺太は1904年の日露戦争にて日本が勝利してロシアの領地であった樺太の北緯50度より南を日本の領土としてきました。当時40万人の日本人が樺太庁のあった豊原を中心に各地に住んでおりました。

樺太は終戦後の8月22日に突然ソ連軍がなだれ込み略奪、強姦を行い、満州と同様、男性をシベリアに抑留し強制労働に付かせます。その挙句、年寄、女、子供の引き揚げが始まり小笠原丸はじめ三隻の船に分乗し、1700人の日本人を乗せ小樽を目指します。その引き揚げ船に向かってソ連の潜水艦が魚雷を打ち込み全員が死亡と云う悲劇も起こっております。又、日露戦争に関係のない日本領土であった北方四島にも1万4千人の島民が住んで居りました。その島民を昭和20年9月になってから追い出し77年を迎える今日までも返還してもらえなくなっております。領土、領海は地下資源、漁業資源に表れ大切なものと考えます。

③ 結論

このソ連とロシアの蛮行を見る時、ロシアの東隣りが日本であり、日本の西には北朝鮮でその奥から南にかけて中国があり、いずれも核保有国の隣国を持つ日本において、安全保障に対して今のままで良いのかが問われます。平和憲法で慣れて納得をしてきた日本の国を考え直さなければならない時期が来ていると考える昨今です。